学校法人微妙学園みみょう幼稚園　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

みみょう幼稚園だより

平成３０年９月号　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　http://mimyo.org/youchien/

実りの秋に・・・

暑い暑い夏を乗り越え、いよいよ二学期が始まりました。少し大きくなった身体や陽に焼けた肌、思い出を語る表情などから、ご家庭で過ごされた長い夏休みも、それぞれに豊かな日々だったことと感じています。二学期は、運動会、親子遠足、芋掘り、みみょうフェスティバル、もちつき、成道会と、一年の中で最も長く、大きな行事も多い期間となります。一つひとつの行事が、子どもたちの発想や創造性が発揮される実り豊かな体験の積み上げとなりますように、職員一同、一層の工夫と努力を重ねて参ります。保護者の皆様にもたくさんのご協力をお願いすることとなりますが、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

判断力はいつの頃から？

「お泊り保育：力を合わせて夕飯づくり」

これまで園だよりでも2回に渡り、「楽しいことが選択できる、楽しいことが続き、発展させ、次につなぐ体験を重ねることで集中力も自ずとついていく。そして、そこには必ず大人の配慮が必要である」ということを、お伝えしてきました。

さて、シリーズ最後となりました“判断力”について考えてみたいと思います。状況判断は、仲間と交わり、考え工夫する中で、5才中旬頃よりぼつぼつとできるようになっていきます。一つのおもちゃで複数の子どもが遊びたいという場面を想像してみてください。入園直後の年少児のお部屋では、お友だちの手から取り上げたり、取られてしまって泣いたりする姿をよく見かけます。年中になると、譲ったり我慢したりできるようになります。そして、もう少し大きくなると、一緒に遊ぶ方法を考えることができるようになりますし、お友だちの行動を評価したり、助言したりもできるようになっていきます。ここで肝心なのが、子どもたちにどんな場所で、どんな玩具や用具が用意されていたのかということと、それらを巡って、子どもたち一人ひとりがどのように心を動かしているかを理解し、時に見守り、時に導く大人の関わりです。初めての集団生活の年少さんには、お友だちの存在や気持ちを言葉にして伝えます。もう少し大きくなると、素敵な行動を紹介することで、新たな価値観や考え方の種も蒔いていきます。年長児くらいになると、考え合う機会を持たせたり、子ども同士で解決できるように促したりしていきます。判断力を伸ばしていくのは、物的、人的環境の質の高さと言えるでしょう。

小学校、中学校・・・社会へと、成長と共に子どもたちを取り巻く環境も変わっていきますから、判断力もずっと変化成長を続けていきます。私自身、現在の仕事、生活を続けていく中で、判断力は最も重要な力の一つであると思っています。特に園長という立場では、迅速かつ正確な判断をしていくことが、大切な園児さんの安心・安全で楽しい園生活を守り、創っていく上で不可欠です。まだまだ、不十分であると感じていますし、まだまだパワーアップできると自分の伸びしろも信じています。子どもたちに質の高い『選択と集中、状況判断』の機会をたくさんたくさん与えながら、私たち保育者も保護者の皆さんもいっしょに伸び続けていきましょう。

（園長　三上　玲子）